

身近にある恵まれた観光資源を探る

# もつと知りたい 室蘭



室蘭近海に訪れるイルカたち

今年で操業100年を迎える日本製鋼所室蘭製作所の  
1万4千トンプレス

室蘭にはすばらしい素材があるのに、  
知らないことはもったいないと思いませんか。  
北海道開拓の歴史や世界に誇るものづくりの技術、  
恵まれた自然など、価値のあるものは  
意外と身近にあります。  
それを生かすには、  
知る・体験することから始まります。  
室蘭の魅力再発見。  
歴史・ものづくり・自然の中にある、  
ふるさとの観光資源を探してみましよう。

観光シーズン到来。室蘭市にも地球岬や白鳥大橋などの風光明媚な景勝地の魅力を求めて、年間約120万人の観光客が全道、全国から訪れています。

「観光」と一口に言っても、その分野は幅広く「見る」「知る」「食べる」「体験する」など、訪れる人々の満足は、一言で表現するのは難しいことです。

室蘭らしい観光とは何かを考えたとき、一体どんな資源があるのでしょうか。室蘭は、北海道の中でも歴史あるまちの一つです。明治5年に天然の良港が開港し、交通の要衝となり、数多くの文化が室蘭に流れてきま



明治5年トキカラモイ（現在の緑町白川米店付近）に出来た最初の波止場

した。旧室蘭駅舎は、明治のたゞすまいを残す貴重な建築物であり、随所に風雪に耐えた歴史の面影が残されています。そのほか、入江運動公園に設置されているユニークトイレは、旧公会堂や石炭栈橋、電気鍋店など懐かしい室蘭建造物をモチーフにしており、トイレで歴史散歩ができることは、古き良き時代を駆け抜けた室蘭ならではの観光資源でしょう。

また、室蘭は「ものづくりのまち」です。日本製鋼所室蘭製作所が操業を始めてから、今年で100年。ものづくりの息吹は、脈々と力強く受け継がれ、北海

道を代表する製造業コンビナートとして、世界に高性能の製品を出荷しています。

ものづくりの裾野は広大です。大きな工場はもちろん、小さなまち工場でも、巧みの技術を駆使した製品が生まれています。ものづくりの現場を知る、体験することができれば、室蘭の特徴を生かした観光に結びつくのではないのでしょうか。

実際に、ものづくりを支える室蘭工業大学では、昨年「ものづくり基盤センター」が開設され、企業と共同した技術開発のほか、学外向けの体験実習も行っています。ものづくりは、

その現場を見る、あるいは体験することで、実感できます。市民団体によって開発された、室蘭生まれの人気者「ボルタ」も7月から製作体験ができるようになり、鉄のまちの基盤を生かした観光が始まっています。

一方、室蘭は自然の豊富なまちでもあります。室蘭岳周辺の豊かな緑、地球岬などの断がい絶壁の景勝、青い海に恵まれた海洋資源など、景観だけではなく、観察することもできる貴重なフィールドが、すぐそこにあります。

イルカや鯨などの海洋動物は、すぐそばの海域で見ることができ、工業都市でありながら、自然の豊かな生態系が広がっていることは、室蘭の優れた財産です。

室蘭再発見。その歴史を振り返るとともに、まちの特徴を生かすことを見つけ、自然に恵まれたことに感謝する。身近にある本物の観光資源を市民が探り、発展させていくことで、室蘭の魅力は輝きを増すことでしょう。さあ、みんなで室蘭見て歩きを始めましょう。



# 室蘭の歴史を知る



正面出入口の「車寄せ」の天井は、花模様の飾りを中心として、一面に格子状の浮き彫りをめぐらせた漆喰仕上げとなっており、明治時代の洋風建築のたたずまいを現在に残している。人力車や馬車などを乗り降りする人の目を楽しませていた。



旧室蘭駅舎の屋根には、6か所に窓が取り付けられた、三角屋根（破風屋根）があり、明治の建築様式としても、珍しい造りとなっている。

## 明治の遺産 旧室蘭駅舎



外壁は白漆喰。木造部分と茶色の屋根によって明快なコントラストを表している。外回りには、全国でも珍しい入母屋式の「がんぎ」と呼ばれるアーケード様式が取り入れられている。



景勝地や史跡への知識が  
観光の価値観を高める

同じ景色を見ても、その地にまつわる認識がどのくらいあるかで、受ける印象が人によって全く異なるものです。景勝地や史跡の観光では、その景色の美しさのみに目を奪われがちですが、それだけではもったいない。その地の歴史や由緒を知っていると楽しさが倍増し、観光の価値観も高くなります。観光客は、目で観光をし、歴史の知識で隠れたロマンを追求して感動し、心が満たされます。室蘭の歴史の調査・研究を経験して、私も室蘭の魅力を常に再発見しています。この楽しみを皆さんにもぜひ知ってもらいたいですね。



室蘭開拓の歴史の礎と  
なった南部陣屋史跡

蝦夷と呼ばれた北海道は、長い間アイヌの人たちの土地でした。室蘭に和人が住み着いたのは、今からおよそ400年前の慶長年間（1千600年ころ）。アイヌの人たちとの商取り引きのために松前藩による「絵鞆場所」が設けられてからです。そのころ、豊臣秀吉が病没し、政権は徳川家康に移った時代でした。陣屋町の民俗資料館に隣接する国指



建物の束石や石だたみが、当時のまま残る陣屋町の南部陣屋史跡。史跡内に設置された案内板には、当時の陣屋がどのような構造になっていたのかが示されている。

定の南部陣屋史跡は、安政3年（1856年）に、南部藩盛岡が外国船を追い払うために築いたとりです。背後に丘陵を背負い、二重の土塁や水堀で守られていました。陣屋史跡に今も残る杉林は、当時植えられたもので、約150年の歴史を今にしのばせてくれます。陣屋には、常時350人ほどの兵が警備に当たっていましたが、外国船との戦闘は一度も無く、明治維新のとき、新政府への引き渡しを拒んだ藩兵により、陣屋は焼き払われ、13年間室蘭を守り続けてきた藩士たちは、故郷の盛岡へ引き上げました。この陣屋史跡は、昭和45年に平面復元工事を行っており、建物の束石や石だたみは、当時のまま残されています。「虎口」という、外敵の侵入を効率的に



高架棧橋トイレ  
(入江陸上競技場)

明治当時の写真



大正当時の写真



大正公会堂トイレ  
(入江温水プール付近)



秋田屋電気鍋店トイレ  
(入江運動公園子どもの広場)

大正当時の写真



かつて現存していた歴史的建造物をテーマに、トイレで歴史散歩ができる室蘭ならではの観光資源。

## 入江運動公園のユニークトイレ



### 明治のたたずまいを残す 道内最古の木造駅舎

阻止するための、突出したとりでがあったことも分かっています。陣屋史跡は現在も調査中で、まだ、なぞだらけです。

旧室蘭駅舎は明治の和洋折衷を取り入れた、寄棟造り。駅舎としては非常に珍しく、道内でも最古の木造建築物の一つです。現在、観光協会の事務室として使われている場所は元駅長室。そのほか、正面出入り口の車寄せや、

屋根に設けられた光の取り入れ窓など、随所に風雪に耐えた歴史の面影が残されています。

明治30年に山手町に初代の室蘭駅が建設されてから、2度の移転が行われ、明治45年に現在の位置に新築されました。天然の良港である室蘭港は、国内外への玄関口として、道内各地の石炭が鉄道で運ばれて来しました。やがて、技術の発達につれ、石炭エネルギーの需要は減り、鉄道が運ぶものは、物から人へと変わっていきました。石炭エネルギー時代のシンボルだった室蘭駅は、時代の移り変わりとともにその役目を終え、平成9年に現在の位置に新室蘭駅が誕生。旧駅舎は、駅としての役目を果たした後も、市民に愛着のある建築物としてその姿は残されました。平成11年には国の有形文化財として登録され、現在も観光協会による市内案内所やバスの待合室、各種催しの会場として、親しまれています。



### 歴史を学べる機会は 身近にあります

歴史というと「勉強しなければならぬ」というイメージがつきもので敬遠しがちですが、学べる場所は身近にあります。旧室蘭駅舎や、地球岬などの室蘭八景といった観光名所には、その歴史や由緒を説明する案内板などが設置されているので、訪れたついでにぜひご覧ください。また、図書館(☎②1658)には、市史など室蘭にちなんだ書籍がそろい、民俗資料館(☎⑤94922)では室蘭の歴史を象徴する郷土資料を見ることが出来ます。なぞを探して室蘭を歩けば、新発見が楽しめます。歴史や由緒の知識をプラスして、より充実した室蘭観光を楽しんでください。



元室蘭市史編纂主任編集員

ひさ すえ しん いち

久末進一さん



# 室蘭の

# ものづくりを知り

## 原点にこだわった ものづくり基盤センター

ものづくりには、コンピューターや精密機械などを利用した最先端技術に関心が寄せられがちですが、原点は手作りです。昨年1月、室蘭工業大学に誕生した、ものづくり基盤センターでも、最先端の工作機械だけでなく、金属を溶かして型に流し込んで物をつくる鋳造や、金属を熱し、たたき加工する鍛造など、鉄のまちとして栄えた室蘭の施設として、原点とも言える手作りにこだわりました。全国的にも、センターとして金属を加熱して溶かす溶解炉と鍛造室などの教育・研究施設を



ものづくり基盤センターの鋳造体験。熱して溶かした金属が、水に触れると一瞬でサンゴ状の塊に変化する現象を前に、子どもたちは驚きと感動の表情を見せ、歓声を上げる。

持つことは、大きな特徴としてあげられます。

同センターは、大学での教育を中心としています。ものづくりを通して地域との交流も行っています。例えば、高校生への施設見学、小・中学生へのものづくり教室なども行っています。昨年は、学外者では約400人が利用し、ものづくりを体験しました。室蘭工業大学は、ものづくりを支える知的財産の発信拠点として、地域に貢献できると考えています。

## ものづくりの魅力が 観光資源

体験を通して、驚きと感動を与えるものづくりには、人を引き付ける魅力があります。その魅力は、地域の特徴を生かしてPRすることで、観光に結びつくと思います。

室蘭らしいものといえば「鉄」。この素材を生かし、鉄の城下町、輪西では毎年、体験型イベントのアイアンフェスタが開催され、多くの市民が鉄に触れています。また、イベントの溶接体験から生まれたポルトとナットの人形「ポルタ」は、誕生当初から人気者になり、お土産などに好評。いずれも、室蘭の特徴が観光に生か

されていると感じています。景色など、見るものだけでなく、ものづくりを体験することも観光に結びつくのではないのでしょうか。

## 体験した人だけが 味わえる喜びがあります

ものづくりを体験したとき、子どもたちは、驚きの歓声を上げ、好奇心に満ちた輝く目を見せてくれます。そういった表情を見ることが、私は何よりも嬉しいですね。

勉強は、さまざまな面から学ぶことで身に付きます。例えば、普段使っている鍋やコップは、どんなものから、どのように作られるのかなど、体験しながら知ることができれば、興味や好



輪西町のポルタ工房で7月からスタートした、ポルタの製作体験。製作体験は、小学生以上を対象に、1日3回行われている。参加費は1千500円。申込み・問い合わせは同工房（☎082233）へ。



室蘭工業大学ものづくり基盤センター  
地域連携部門責任者  
しみず かず みち  
**清水 一 道** 准教授

## ものづくりの魅力を感じ 伝えてください

奇心がグンと上がります。そして、物を作る難しさと、大変さを知り、物を大切に扱うようになります。

鉄のまち室蘭ならではの、ものづくり観光への取り組みは、まだ始まったばかり。このまちに住む皆さんが、こんな楽しいことを知らないのはもったいないですね。ものづくり基盤センター（☎465398）では、事前予約で、団体によるものづくり体験を受け入れているほか、7月からは、ものづくりに関わる人の話をお茶などを飲みながら聞ける「テクノカフェ」をモルエ中島で開催しています。まずは市民の皆さんが、ものづくりの魅力を感じ、周囲の人にその楽しさを伝えてください。

# 室蘭の自然を知る



**噴火湾はスゴイ！**  
その素晴らしさを知らない  
ことはもったいない

室蘭を取り囲む海は、スゴイんですよ！ここに住む皆さんが、室蘭の海の素晴らしさを知らないということは、もったいない。

工業都市というイメージが強い室蘭ですが、周りには多くの魚や海藻が生きている。美しく恵み豊かな海が広がっています。漁港からは新鮮な海の幸が年間2万トンも水揚げされ、漁獲量は胆



撮影：笹森琴絵さん

室蘭近海に訪れるミンククジラ。イルカ・鯨ウォッチングでは、体長7メートルにも及ぶ、その雄大な姿を間近で見ることができ。ウォッチングの詳細はK.Kエルム（☎01822、📠03822）に問い合わせを。



**栄養が豊富な噴火湾は  
生命のゆりかご**

振ナンバーワン。その豊富な魚を求めて、イルカや鯨も訪れます。海に面した室蘭は、海の恵みも重要な観光資源だと思っています。

噴火湾は、その地形や潮の流れなど、さまざまな要因が重なって、生命を育む栄養分や、魚のえさになるプランクトンが豊富なんです。

津軽海峡があるため、日本海から流れる津軽暖流と、千島列島から流れる親潮（寒流）など、海流が複雑に流れ込み、世界的にも貴重な環境を形成しています。また、噴火湾を囲む山の雪解け水や、噴火で散らばった火山灰、草木や陸の生物が土に還った栄養分が川で海に運ばれています。

このように、多様な生物が暮らすことができる、恵み豊かな海が広がる噴火湾は、生命のゆりかごとと言えるでしょう。



**噴火湾は魚を食べに訪れる  
イルカや鯨と出会う場所**

恵み豊かな噴火湾には、カマイルカやバンドウイルカ、ミンククジラ、シャチなど、魚をえさとする鯨類が1年を通して、少なくとも7種類が確認され、世界に誇るべき鯨類観察のメッ



**イルカ・鯨ウォッチングの  
魅力は自然を楽しむ体験**

カなんです。5月から8月までは、ウォッチング船が定期就航し、これらの動物との橋渡しをしてくれます。

イルカ・鯨ウォッチングといっても、イルカや鯨を見るだけでなく、鳥や美しい自然を見たり、船に乗るなど、いろんな体験ができます。普段、私たちが目にする地球岬やトツカリシヨなどの景勝地も、海から見ること、また別の新鮮な印象を与えてくれます。

イルカ・鯨ウォッチングは、人生観を変える体験になるはず。同じ1頭のイルカを見ても、全員が違う感想を持つと思います。一人ひとりが持つ違う感想や感動などをぜひ日常に持ち帰って、何らかの形でその人の人生に何かを残してくれたらいいなと思います。



**次代のため、  
自然のことをいつも気に  
かけてほしい**

カマイルカは、噴火湾で子どもを生み、子育てを3か月間行います。室蘭近海は噴火



海洋動物調査員

ささ もり こと  
**笹森琴絵**さん



撮影：笹森琴絵さん

カマイルカが水面をジャンプし、豪快な水しぶきを上げながら、群れをなして泳ぐ。

湾の内側にあるため、波が穏やかで、泳ぐ力の弱い子どもを育てる環境として最適です。栄養分が豊かで、力のある海、噴火湾では、多くの生命が誕生し、育っています。

しかし、近年、海洋動物の動きや種類が変わってきているんです。環境汚染や温暖化などが影響していると思います。このままだと、彼らに会えなくなる日が訪れるでしょう。自然のことをだれかがいつも気にかけてほしい。いつまでも、恵み豊かな、美しい自然に囲まれて暮らしたいですね。